

# Veritas NetBackup™ LiveUpdate ガイド

リリース 8.1

**VERITAS™**

# Veritas NetBackup™ LiveUpdate ガイド

最終更新日: 2017-11-03

## 法的通知と登録商標

Copyright © 2017 Veritas Technologies LLC. All rights reserved.

Veritas、Veritas ロゴ、NetBackup は Veritas Technologies LLC または同社の米国とその他の国における関連会社の商標または登録商標です。その他の会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。

この製品には、サードパーティ（「サードパーティプログラム」）の所有物であることをベリタスが示す必要のあるサードパーティソフトウェアが含まれている場合があります。サードパーティプログラムの一部は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスで提供されます。本ソフトウェアに含まれる本使用許諾契約は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスでお客様が有する権利または義務を変更しないものとします。このベリタス製品に付属するサードパーティの法的通知文書は次の場所で入手できます。

<https://www.veritas.com/about/legal/license-agreements>

本書に記載されている製品は、その使用、コピー、頒布、逆コンパイルおよびリバースエンジニアリングを制限するライセンスに基づいて頒布されます。Veritas Technologies LLC からの書面による許可なく本書を複製することはできません。

本書は、現状のまま提供されるものであり、その商品性、特定目的への適合性、または不侵害の暗黙的な保証を含む、明示的あるいは暗黙的な条件、表明、および保証はすべて免責されるものとします。ただし、これらの免責が法的に無効であるとされる場合を除きます。Veritas Technologies LLC は、本書の提供、内容の実施、また本書の利用によって偶発的あるいは必然的に生じる損害については責任を負わないものとします。本書に記載の情報は、予告なく変更される場合があります。

ライセンス対象ソフトウェアおよび資料は、FAR 12.212 の規定によって商用コンピュータソフトウェアと見なされ、場合に応じて、FAR 52.227-19「Commercial Computer Software - Restricted Rights」、DFARS 227.7202、「Commercial Computer Software and Commercial Computer Software Documentation」、その後継規制の規定により制限された権利の対象となります。業務用またはホスト対象サービスとしてベリタスによって提供されている場合でも同様です。米国政府によるライセンス対象ソフトウェアおよび資料の使用、修正、複製のリリース、実演、表示または開示は、本使用許諾契約の条項に従ってのみ行われるものとします。

Veritas Technologies LLC  
500 E Middlefield Road  
Mountain View, CA 94043

<http://www.veritas.com>

## テクニカルサポート

テクニカルサポートは世界中にサポートセンターを設けています。すべてのサポートサービスは、お客様のサポート契約およびその時点でのエンタープライズテクニカルサポートポリシーに従って提供されます。サポートサービスとテクニカルサポートへの問い合わせ方法については、次の弊社の Web サイトにアクセスしてください。

[https://www.veritas.com/support/ja\\_JP.html](https://www.veritas.com/support/ja_JP.html)

次の URL でベリタスアカウントの情報を管理できます。

<https://my.veritas.com>

既存のサポート契約に関する質問については、次に示す地域のサポート契約管理チームに電子メールでお問い合わせください。

世界全域 (日本を除く)

[CustomerCare@veritas.com](mailto:CustomerCare@veritas.com)

Japan (日本)

[CustomerCare\\_Japan@veritas.com](mailto:CustomerCare_Japan@veritas.com)

## マニュアル

マニュアルの最新バージョンがあることを確認してください。各マニュアルには、2 ページに最終更新日付が記載されています。最新のマニュアルは、次のベリタス Web サイトで入手できます。

<https://sort.veritas.com/documents>

## マニュアルに対するご意見

お客様のご意見は弊社の財産です。改善点のご指摘やマニュアルの誤謬脱漏などの報告をお願いします。その際には、マニュアルのタイトル、バージョン、章タイトル、セクションタイトルも合わせてご報告ください。ご意見は次のアドレスに送信してください。

[NB.docs@veritas.com](mailto:NB.docs@veritas.com)

次のベリタスコミュニティサイトでマニュアルの情報を参照したり、質問することもできます。

<http://www.veritas.com/community/ja>

## ベリタスの Service and Operations Readiness Tools (SORT) の表示

ベリタスの Service and Operations Readiness Tools (SORT) は、時間がかかる管理タスクを自動化および簡素化するための情報とツールを提供する Web サイトです。製品によって異なりますが、SORT はインストールとアップグレードの準備、データセンターにおけるリスクの識別、および運用効率の向上を支援します。SORT がお客様の製品に提供できるサービスとツールについては、次のデータシートを参照してください。

[https://sort.veritas.com/data/support/SORT\\_Data\\_Sheet.pdf](https://sort.veritas.com/data/support/SORT_Data_Sheet.pdf)

# 目次

第 1 章	概要 .....	6
	NetBackup LiveUpdate について .....	6
	Java JRE のサポートについて .....	9
	NetBackup LiveUpdate 処理の概要 .....	10
	NetBackup LiveUpdate の操作上の注意事項 .....	12
	LiveUpdate を使って NetBackup 8.1 のインストールまたはこのバージョンへのアップグレードを試みると、対象ホストに互換性のないバージョンの Java JRE がインストールされていることが原因で失敗することがある .....	12
	プッシュインストールとサイレントインストール方式では、パッケージの一部として LiveUpdate エージェントがインストールされない .....	12
第 2 章	LiveUpdate サーバーの設定 .....	14
	NetBackup LiveUpdate サーバーを設定するためのガイドライン .....	14
	フォーマットされた NetBackup LiveUpdate パッケージの LiveUpdate サーバーへのコピー .....	15
第 3 章	サーバーとクライアントの更新 .....	18
	LiveUpdate ポリシーの概要 .....	18
	LiveUpdate ポリシーの作成 .....	20
	LiveUpdate ポリシーへのクライアントのインポート .....	22
	サーバーの更新について .....	24
	ローカルにアップグレードする前の NetBackup プロセスとサービスの停止 .....	26
	NetBackup LiveUpdate を使ったサーバーの更新 .....	27
	NetBackup LiveUpdate を使ったクライアントの更新 .....	30
	LiveUpdate ログについて .....	30
	リモートでのログの取得 .....	31
	NetBackup ホストでの LiveUpdate の無効化 .....	32

付録 A	<b>参照先</b> .....	34
	ホストのローカル構成 .....	34
	Windows および UNIX クライアントでの LiveUpdate ファイル共有サー バーと LiveUpdate ポリシーについて .....	36

# 概要

この章では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup LiveUpdate](#) について
- [NetBackup LiveUpdate](#) 処理の概要
- [NetBackup LiveUpdate](#) の操作上の注意事項

## NetBackup LiveUpdate について

NetBackup LiveUpdate は、ポリシーに基づいたクロスプラットフォーム方式を提供して、NetBackup ホストに NetBackup リリース更新とホットフィックスのダウンロードを配布します。

NetBackup LiveUpdate は NetBackup クライアントのメジャーリリースとマイナーリリースへのアップグレードをサポートします。8.1 NetBackup メディアキットに別途 DVD が含まれているため、NetBackup LiveUpdate サーバーに LiveUpdate クライアントパッケージをコピーできます。

---

**メモ:** NetBackup LiveUpdate は NetBackup サーバーのメジャーリリースとマイナーリリースへのアップグレードをサポートしません。

---

### 注意:

LiveUpdate から開始されたクライアントのインストールでは、セキュリティ証明書は配備されません。証明書がないと、バックアップとリストアが失敗します。セキュリティ証明書を配備するには、手動での手順が必要です。セキュリティ証明書について詳しくは、[technote\\_link](#) を参照してください。

---

LiveUpdate 処理は手動で管理されるため、更新対象のコンピュータおよび更新のタイミングを制御できます。

更新のダウンロードおよびインストール方法を次に示します。

- 最初に、必要なファイルを、指定した **NetBackup LiveUpdate** サーバーに手動でコピーする必要があります。  
**NetBackup** リリース更新パッケージの場合は、ベリタス社の適切なサポート **Web** サイトから必要なファイルをダウンロードします。更新パッケージは複数の圧縮ファイルで構成されています。そのセットをすべてダウンロードする必要があります。  
**NetBackup** バージョン 7.1 以降のメジャーリリースまたはマイナーリリースの場合は、メディアキットに含まれている **DVD** の内容をコピーします。
- 次に、**LiveUpdate** ポリシーを作成し、**NetBackup** マスターサーバーで実行します。ポリシーによって、ポリシーの各クライアントとの **LiveUpdate** セッションが開始されます。  
リリース更新と **Hotfix** の場合は、**LiveUpdate** ポリシーに **NetBackup** サーバーを含めることができます。メジャーリリースまたはマイナーリリースへのアップグレードの場合は、**LiveUpdate** ポリシーにはクライアントのみが含まれます。
- **LiveUpdate** ポリシーを実行すると、各クライアント上の **LiveUpdate** エージェントによって利用可能な更新があるかどうか **LiveUpdate** サーバーがチェックされます。その後、更新をサイレントインストールする **NetBackup** の更新インストールスクリプトがエージェントによって実行されます。

**NetBackup LiveUpdate** は **Veritas LiveUpdate** と同じエージェントを使います。違いは、利用可能な製品の更新が存在するサーバーです。

これらの違いは次のとおりです。

- |                             |  |
|-----------------------------|--|
| <b>NetBackup LiveUpdate</b> | <ul style="list-style-type: none"><li>■ <b>NetBackup</b> リリース更新ファイルを配布するために、バックアップ環境に <b>LiveUpdate</b> サーバーを設定し、構成します。</li><li>■ <b>NetBackup</b> のサポート <b>Web</b> サイトからこのサーバーに更新を手動でダウンロードします。</li></ul> |
|-----------------------------|--|

<b>Veritas LiveUpdate</b>	<b>LiveUpdate</b> エージェントは <b>NetBackup</b> 以外のベリタス製品の更新が入手可能であるベリタス社の <b>Web</b> サイトに接続するように事前設定されています。
---------------------------	---

**Veritas LiveUpdate** について詳しくは、<http://www.veritas.com> にアクセスしてください。

**NetBackup 8.1** のインストールまたはこのバージョンへのアップグレード時に、次の **LiveUpdate** エージェントが自動的にインストールされます。

<b>Windows システム</b>	<b>Windows LiveUpdate</b> エージェントバージョン 3.3.0.92
---------------------	--

<b>UNIX システム</b>	<b>Java LiveUpdate</b> エージェントバージョン 3.6.25
------------------	---

p.9 の「[Java JRE のサポートについて](#)」を参照してください。

NetBackup LiveUpdate を使うには、NetBackup LiveUpdate サーバーを設定し、構成する必要があります。このサーバーは Web サーバーでも共有ディスクでもかまいません。唯一の要件は更新対象のすべての NetBackup ホストからアクセス可能であることです。

---

**メモ:** 現在、Windows の共有ディスクを使う場合、共有を null 共有として設定する必要があります。詳しくは、<http://www.veritas.com/docs/TECH55675> にある TechNote を参照してください。

---

このサーバーは、NetBackup リリース更新ファイルをダウンロードし、格納するために使われます。また、サーバーは、メジャーリリースとマイナーリリースに含まれるクライアントパッケージを格納するためにも使われます。このサーバーから、ファイルが NetBackup 環境のコンピュータに配布され、インストールされます。

次に NetBackup LiveUpdate のインストール機能を示します。

- |                   |  |
|-------------------|--|
| リモートインストール        | <ul style="list-style-type: none"><li>■ ダウンロードしたリリース更新および Hotfix は NetBackup サーバーおよびクライアントにリモートインストールできます。</li><li>■ メジャーリリースおよびマイナーリリースのクライアントパッケージは NetBackup LiveUpdate サーバーにコピーされ、NetBackup クライアントにリモートインストールできます。</li></ul>             |
| クロスプラットフォームインストール | <ul style="list-style-type: none"><li>■ Windows ホストと UNIX ホストは単一の LiveUpdate ポリシーから更新できます。</li><li>■ ポリシーは Windows ホストと UNIX ホストのどちらからでも作成、実行できます。</li></ul>   |
| クラスタシステム          | <ul style="list-style-type: none"><li>■ リリース更新および Hotfix は Windows クラスタシステムおよび UNIX クラスタシステムにダウンロードおよびインストールできます。</li><li>■ メジャーリリースおよびマイナーリリースのクライアントパッケージは NetBackup LiveUpdate サーバーにコピーされ、Windows クラスタおよび UNIX クラスタにインストールできます。</li></ul> |

Windows クラスタシステム以外の NetBackup のインストールに、LiveUpdate を使用して更新をインストールする場合は、ローカルの管理者権限は必要ありません。ただし、NetBackup マスターサーバーから NetBackup ポリシーを実行する権限は必要です。

NetBackup LiveUpdate は、更新を迅速かつ簡単に配布するための追加の手段です。ユーザーが更新を入手するための現在のプログラムも依然として使用できます。



## Java JRE のサポートについて

Java LiveUpdate (JLU) エージェントは Java JRE 1.4.2 の最小バージョンがインストールされていることを必要とします。NetBackup はほとんどの UNIX プラットフォームに対して、この最小必要条件を満たすか、または超える Java JRE を配信します。

NetBackup では、Linux IBMpSeries プラットフォーム用の Java JRE を提供しません。このプラットフォームの場合、NetBackup のインストールスクリプトは受け入れ可能なバージョンの Java JRE を検出するように試みます。受け入れ可能なバージョンが検出されれば、適切なリンクが作成されます。受け入れ不能なバージョンが検出されれば、スクリプトによって通知されます。

スクリプトが Java JRE も、受け入れ可能なバージョンの Java JRE も検出しなければ、NetBackup をインストールする前に Java JRE を手動でインストールしてください。Java JRE 1.4.2 またはそれ以降をインストールした後、NetBackup クライアントソフトウェアをインストールできます。

NetBackup LiveUpdate の一部のバージョンは、一部の Linux IBMpSeries と IBMzSeries システムでの使用がサポートされていません。次の表は、これらのシステムでどの NetBackup LiveUpdate バージョンを使うことができるかを記述します。

表 1-1 IBMpSeries と IBMzSeries システムでサポートされる NetBackup LiveUpdate のバージョン

システム	NetBackup 6.5 と 7.0 でサポートされる	NetBackup 7.0.1 でサポートされる	NetBackup 7.x でサポートされる
IBMzSeries RedHat	いいえ	はい (注意 1 を参照)	はい (注意 1 を参照)
IBMzSeries SUSE	いいえ	はい (注意 1 を参照)	はい (注意 1 を参照)
IBMpSeries RedHat	はい (注意 2 を参照)	はい (注意 2 を参照)	はい (注意 2 を参照)
IBMpSeries SUSE	はい	はい	はい

■ 注意 1

IBMzSeries システムには NetBackup とともに Java JRE が配信されます。特定の条件下では、NetBackup クライアントをアップグレードするときに次のエラーと失敗が発生することがあります。

```
Oct 13, 2010 1:00:37 AM Trying to load jar file from /tmp/
1286949636653/cryptix-jce-provider.jar
Oct 13, 2010 1:00:37 AM IdsEncodingFailed
Oct 13, 2010 1:00:37 AM JLUException
Nested Exception is:
[ java.security.InvalidKeyException ] Illegal key size or
default parameters
```

この問題を修正するには、最初に NetBackup Java JRE に「unlimited strength jurisdiction policy files」をインストールしてください。NetBackup は Java JRE と一緒にこれらのファイルを配信しません。IBM 社の Web サイトからダウンロードし、NetBackup Java JRE がある場所に手動でインストールする必要があります。

次に、NetBackup クライアントのアップグレード手順を再び実行します。このアップグレードによって、NetBackup LiveUpdate エージェントも再インストールされます。

- 注意 2

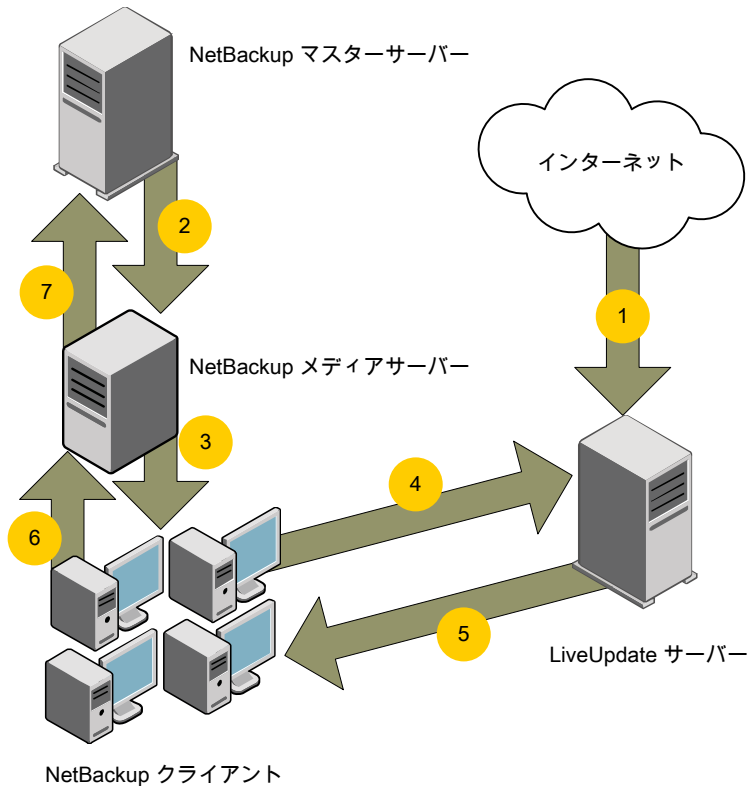
IBMpSeries Red Hat バージョン 4 で NetBackup LiveUpdate を使うには、まず IBM JRE バージョン 1.6 をインストールする必要があります。

p.36 の「[Windows および UNIX クライアントでの LiveUpdate ファイル共有サーバーと LiveUpdate ポリシーについて](#)」を参照してください。

## NetBackup LiveUpdate 処理の概要

NetBackup LiveUpdate 処理は次のように動作します。

図 1-1 LiveUpdate の概要



1. NetBackup のメンテナンス更新は、NetBackup サポートサイトから NetBackup LiveUpdate サーバーに手動でダウンロードされます。
2. NetBackup マスターサーバーから、NetBackup LiveUpdate ポリシーが開始されます。
3. メディアサーバーはクライアントで LiveUpdate セッションを起動します。
4. NetBackup クライアントの LiveUpdate エージェントは、NetBackup LiveUpdate サーバーをチェックして、新しい更新が利用可能かどうかを確認します。
5. 新しい更新が存在する場合は NetBackup クライアントにダウンロードされ、LiveUpdate はサイレントモードでパッチをインストールする、NetBackup パッチインストールスクリプトを起動します。
6. LiveUpdate セッションの状態はメディアサーバーに報告されます。
7. LiveUpdate ジョブの状態は NetBackup のアクティビティモニターで更新されます。

---

**メモ:** NetBackup のすべての通信では (マスターからメディア、クライアントへなど)、バックアップやリストアに使用される標準の NetBackup ポートが使用されます。

---

LiveUpdate プロセスに関する詳細な情報を参照できます。

<http://www.veritas.com/docs/TECH57671>

## NetBackup LiveUpdate の操作上の注意事項

この項では、NetBackup 8.1 の LiveUpdate に関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

LiveUpdate を使って NetBackup 8.1 のインストールまたはこのバージョンへのアップグレードを試みると、対象ホストに互換性のないバージョンの Java JRE がインストールされていることが原因で失敗することがある

LiveUpdate を使って NetBackup 8.1 をインストールまたは NetBackup 8.1 にアップグレードしようとする、対象ホストに互換性のないバージョンの Java JRE をインストールしていることが原因で失敗する可能性があります。

Java LiveUpdate (JLU) エージェントは Java JRE の最小バージョンがインストールされていることを必要とします。ほとんどの UNIX プラットフォームで、NetBackup はこの最小必要条件以上の Java JRE バージョンを配信します。ただし、Java はいくつかの特定の UNIX プラットフォーム用 NetBackup インストールパッケージに含まれなくなりました。これらのパッケージのいずれかで NetBackup をアップグレードすると、以前に NetBackup がインストールした Java バージョンが削除されます。

### プッシュインストールとサイレントインストール方式では、パッケージの一部として LiveUpdate エージェントがインストールされない

プッシュインストールとサイレントインストール方式では、パッケージの一部として LiveUpdate エージェントをインストールしません。LiveUpdate エージェントをインストールする場合は、ローカルホストに LiveUpdate のバイナリをコピーして LiveUpdate エージェントを手動でインストールすることを Veritas が推奨します。LiveUpdate のバイナリは次の場所から入手できます。

```
¥¥<dvd_root>¥Addons¥<platform>¥LiveUpdate
```

LiveUpdate のインストール方法について詳しくは、『NetBackup LiveUpdate ガイド』を参照してください。

---

**メモ:** この問題が多数のコンピュータに影響する場合、LiveUpdate エージェントをインストールするために **Altiris** などのサードパーティのアプリケーションを使うことができます。

---

# LiveUpdate サーバーの設定

この章では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup LiveUpdate サーバーを設定するためのガイドライン](#)
- [フォーマットされた NetBackup LiveUpdate パッケージの LiveUpdate サーバーへのコピー](#)

## NetBackup LiveUpdate サーバーを設定するためのガイドライン

NetBackup LiveUpdate サーバーには、特別なソフトウェアのインストールは必要ありません。NetBackup ソフトウェアも NetBackup LiveUpdate サーバーでは必要とされません。

次は NetBackup LiveUpdate サーバーを設定するためのガイドラインと要件を記述します。

サーバーのプラットフォーム      NetBackup LiveUpdate サーバーには、Windows ホストまたは UNIX ホストを使用できます。

## サーバーの構成

LiveUpdate サーバーは次のいずれかの方法で設定する必要があります。

- HTTP サーバーか HTTPS サーバーとして。  
HTTPS サーバーでは、認証局による署名された証明書を必ず使用してください。
- 更新対象のすべての NetBackup LiveUpdate ホスト (サーバーかクライアント) によってアクセス可能な共有ディスクかパーティションとして。

**メモ:** 現在、Windows の共有ディスクを使う場合、共有を null 共有として設定する必要があります。詳しくは、<http://www.veritas.com/docs/TECH55675> にある TechNote を参照してください。

**メモ:** Web サーバーソフトウェアによって、管理者は Web サーバーが動作できるファイル形式を限定することができます。LiveUpdate サーバーは、zip と flg 両方のファイル形式を LiveUpdate ポリシーに対して正しく動作させて正常に終了させる必要があります。これらのファイル形式の動作に失敗すると、LiveUpdate ジョブが失敗する可能性があります。

## 既存の LiveUpdate サーバーがある環境

Veritas Endpoint Security または Veritas AntiVirus のような他のベリタス製品専用のローカルの LiveUpdate サーバーがあったら、競合する可能性があることに注意してください。

競合を避けるためには、次の処置の 1 つをとります。

- ローカルの Veritas LiveUpdate サーバーの別のディレクトリに NetBackup リリース更新をダウンロードします。
- 別のコンピュータを NetBackup LiveUpdate サーバーとして指定します。

## フォーマットされた NetBackup LiveUpdate パッケージの LiveUpdate サーバーへのコピー

LiveUpdate ポリシーを正常に実行するには、フォーマットされた NetBackup LiveUpdate パッケージを NetBackup LiveUpdate サーバーにコピーしてください。このパッケージは、次のいずれかの方法で入手できます。

## フォーマットされた NetBackup LiveUpdate パッケージの LiveUpdate サーバーへのコピー

サポート Web サイトから NetBackup LiveUpdate のリリース更新パッケージは典型的な  
のダウンロード (リリース NetBackup リリース更新パッケージとは異なります。LiveUpdate エー  
更新と Hotfix) ジェントは LiveUpdate 専用で署名され、フォーマットされているパッ  
パッケージのみをダウンロードし、インストールできます。NetBackup  
LiveUpdate のパッケージ名は NBLU で始まり、複数の圧縮ファイルか  
ら成っています。ファイルは、テクニカルサポートサイトから手動でのみ  
ダウンロードできます。

DVD からのファイルのコ フォーマットされた NetBackup LiveUpdate クライアントの DVD の内  
ピー (メジャーリリースとマ 容を NetBackup LiveUpdate サーバーの目的の場所にコピーします。  
イナーリリース)

次の手順を使って、フォーマットされた NetBackup LiveUpdate パッケージを NetBackup LiveUpdate サーバーにコピーします。

### NetBackup LiveUpdate サーバーに NetBackup リリース更新または Hotfix をダウンロードする方法

- 1 NetBackup LiveUpdate サーバーに、管理者としてログオンします。
  - 2 インターネットブラウザを開き、次のアドレスを入力します。  
<http://www.veritas.com/business/support/index?page=home>
  - 3 [ナレッジベース (技術情報) の検索 (Knowledge Base Search)] フィールドに以下を入力します。
    - [キーワードまたはフレーズを入力する (Enter keywords or phrase)] フィールドに `liveupdate download links` と入力します。
    - [さらに製品名を追加して検索する (Add a product for best results)] フィールドに `NetBackup Enterprise Server` と入力します。
  - 4 虫めがねをクリックして検索を実行します。
  - 5 検索結果で、ご使用環境の NetBackup の適切なバージョンに対応するハイパーリンクをクリックします。
  - 6 ダウンロードリンクのページで、TechNote の LiveUpdate セクションに達するまで下にスクロールします。
  - 7 適切なリンクに従い、必要なプラットフォームの LiveUpdate パッケージをダウンロードします。
- UNIX ホストを更新するには、UNIX のすべてのリリース更新ファイルをダウンロードしてください。

Windows ホストを更新するには、お使いのハードウェアバージョンに適切なリリース更新ファイルをダウンロードします。

- 8 LiveUpdate サーバーのディレクトリにファイルを解凍します。



フォーマットされた NetBackup LiveUpdate パッケージを NetBackup の DVD からコピーする方法

- 1 フォーマットされた NetBackup LiveUpdate パッケージが入っている DVD を NetBackup LiveUpdate サーバーのドライブに挿入します。
- 2 NetBackup LiveUpdate サーバーの目的の場所に DVD のすべてのファイルをコピーします。

# サーバーとクライアントの更新

この章では以下の項目について説明しています。

- [LiveUpdate ポリシーの概要](#)
- [LiveUpdate ポリシーの作成](#)
- [LiveUpdate ポリシーへのクライアントのインポート](#)
- [サーバーの更新について](#)
- [ローカルにアップグレードする前の NetBackup プロセスとサービスの停止](#)
- [NetBackup LiveUpdate を使ったサーバーの更新](#)
- [NetBackup LiveUpdate を使ったクライアントの更新](#)
- [LiveUpdate ログについて](#)
- [NetBackup ホストでの LiveUpdate の無効化](#)

## LiveUpdate ポリシーの概要

LiveUpdate ポリシーを使用すると、更新する NetBackup サーバーおよびクライアントを制御できます。更新時期の制御を可能にするポリシーを手動でアクティブ化する必要があります。

NetBackup をインストールする場合、LiveUpdate エージェントは自動的にインストールされます。インストール時に追加の設定情報は不要です。LiveUpdate ポリシーを使用して、ホストがポリシーで使用する LiveUpdate サーバーを指定します。

たとえば、マスターサーバーと 2 台の他のホストに LiveUpdate をインストールしたとします。これらの 3 台のサーバーはすべて LiveUpdate サーバーとして設定されます。

LiveUpdate ポリシーを作成するときに、[LiveUpdate サーバーの位置 (LiveUpdate Server Location)]を指定する必要があります。3 つの LiveUpdate サーバー名のいずれかを [LiveUpdate サーバーの位置 (LiveUpdate Server Location)] に指定します。次に LiveUpdate ポリシーでアップデートするホストのすべてのホスト名を追加します。ポリシーを実行すると、指定済みの [LiveUpdate サーバーの位置 (LiveUpdate Server Location)] がポリシー内のすべてのホストに割り当てられます。

または、個別の各ホストで [LiveUpdate サーバーの位置 (LiveUpdate Server Location)] を設定できます。ホストで LiveUpdate ポリシーを実行する前に、この設定を使用する必要があります。

LiveUpdate ポリシーを作成する場合は、次のガイドラインを使用してください。

#### 互換性

- NetBackup サーバーと NetBackup クライアントに別の LiveUpdate ポリシーを作成することを推奨します。
- 必ずサーバーのポリシーを実行してからクライアントのポリシーを実行します。クライアントはサーバーより新しい NetBackup のバージョンを実行できません。

#### LiveUpdate ポリシーを実行するサーバー

NetBackup サービスおよびデーモンはリリース更新のインストール中に停止するため、LiveUpdate ポリシーに次のサーバーを追加しないでください。

- LiveUpdate ポリシーを実行する NetBackup マスターサーバー
- LiveUpdate ポリシーの実行に関連するメディアサーバー

これらのサーバーはコマンドラインインターフェースを使用して更新する必要があります。

p.27 の「[NetBackup LiveUpdate を使ったサーバーの更新](#)」を参照してください。

#### クラスタシステム

クラスタのすべてのノードを更新する必要があるため、LiveUpdate ポリシーにすべての実際のホスト名 (仮想名でない) が含まれていることを確認してください。ベストプラクティスは、クラスタサーバーごとに別々のポリシーを持つことです。次にすべてのノードのホスト名をそのクラスタのポリシーに含めます。

また、LiveUpdate ポリシーの [ポリシーごとにジョブ数を制限する (Limit jobs per policy)] 属性は、クラスタのノード数以上に設定する必要があります。この設定により、すべてのノードが同時に更新される可能性が高くなり、ノード更新中のフェールオーバーの可能性を低減できます。すべてのノードが更新される前にフェールオーバーが発生すると、アクティブノードの NetBackup データベースおよびバイナリが不一致になる可能性があります。

LiveUpdate ポリシーは、バックアップポリシーの形式ではなく、NetBackup の汎用ポリシーの形式です。NetBackup 管理コンソールで、LiveUpdate ポリシーは [ポリシー

(Policies)]タブに表示されません。LiveUpdate ポリシーを表示し、管理するには、[ファイル (File)] > [LiveUpdate] をクリックするか、または LiveUpdate アイコンをクリックします。

## LiveUpdate ポリシーの作成

次の手順を使用して LiveUpdate ポリシーを作成します。

### NetBackup LiveUpdate ポリシーを作成する方法

- 1 ポリシーを作成するマスターサーバーにログオンします。  
このサーバーは、必要な最新のレベルにすでに更新されている必要があります。  
p.27 の「[NetBackup LiveUpdate を使ったサーバーの更新](#)」を参照してください。
- 2 NetBackup 管理コンソールを起動します。
- 3 [ファイル (File)] > [LiveUpdate] を選択するか、LiveUpdate アイコンをクリックします。
- 4 [LiveUpdate ポリシー (LiveUpdate Policy)] 画面で、[新規 (New)] をクリックします。
- 5 ポリシーの名前を入力し、[OK] をクリックします。
- 6 新しい [LiveUpdate ポリシー (LiveUpdate Policy)] ウィンドウの [属性 (Attributes)] タブで、以下の項目を構成します。

[LiveUpdate サーバーの場所 (LiveUpdate Server Location)] ■ 更新が存在する LiveUpdate サーバーの場所の完全なパスを入力します。

次の例は、サーバーの場所を入力するために使う必要がある形式を示しています。

`http://yourWebServer.com/LUServer/`

`file:/net/yourFileServer/LUServer/`

`file:¥¥yourFileServer¥¥LUServer¥`

このポリシーのすべてのクライアントに同じ LiveUpdate サーバーの場所を強制的に使用させる (Force all clients in this policy to use the same LiveUpdate server location)

デフォルトでは、このオプションにはチェックマークが付いています。ベリタス社は同じ [LiveUpdate サーバーの場所 (LiveUpdate Server Location)] を使うすべてのホストを含む LiveUpdate ポリシーを作成し、このオプションのチェックを付けたままにすることをお勧めします。

ただし、NetBackup 環境に複数の LiveUpdate サーバーが含まれる場合は、このオプションを無効にしてもかまいません。

単一のポリシー内のホストで異なる [LiveUpdate サーバーの場所 (LiveUpdate Server Location)] を使う場合は、このオプションを無効にします。

このオプションを無効にすると、次のようになります。

- 以前に構成されているホスト  
すでに構成されているポリシー内のホストでは、前と同じ LiveUpdate サーバーの場所が継続して使用されます。
- 以前に構成されていないホスト  
まだ構成されていないポリシー内のホストでは、このポリシーで指定された [LiveUpdate サーバーの場所 (LiveUpdate Server Location)] が使用されます。

**メモ:** このオプションを無効にした場合でも、[LiveUpdate サーバーの場所 (LiveUpdate Server Location)] を指定する必要があります。

ローカル LiveUpdate サーバー構成について詳しくは、付録 A を参照してください。

NetBackup サーバー

NetBackup サーバーの名前を入力します。

ベリタス社はこのマスターサーバーを選択することを推奨します。

ここで指定するサーバー名は更新したいすべてのホストの次の場所にも存在する必要があります。

- bp.conf ファイル (UNIX ホスト)
- Windows レジストリ (Windows ホスト)

bp.conf ファイルまたは Windows レジストリ ファイルへのホスト名の追加について詳しくは、『Syamntec NetBackup インストールガイド』を参照してください。

<http://www.veritas.com/docs/DOC5332>

**メモ:** ファイアウォールによってマスターサーバーとクライアント間の通信が妨げられる場合は、ポリシーでクライアントと通信できるメディアサーバーを指定してください。指定したサーバーをこのポリシーに含めることはできません。

ポリシーごとにジョブ数を制限する (Limit jobs per policy)

ポリシーを実行するときに同時に実行する LiveUpdate ジョブの数にこのオプションを設定します。

7 [クライアント (Clients)] タブをクリックし、次に [新規 (New)] をクリックします。

8 1 つ目のクライアントの名前を入力し、Enter キーを押します。

すべてのクライアント名を入力するまでこの手順を繰り返します。

NetBackup LiveUpdate エージェントがインストールおよび構成されているクライアントコンピュータの名前のみを入力する必要があります。

9 すべてのクライアント名を入力したら、[OK] をクリックします。

[LiveUpdate サーバーの場所 (LiveUpdate Server Location)] がファイル共有として構成されている場合は、LiveUpdate ポリシーに Windows と UNIX クライアントの両方を含めることができます。NetBackup は次に、ターゲットプラットフォーム上の適切なパス名の構文に、指定された場所をマッピングしようとします。

p.36 の「Windows および UNIX クライアントでの LiveUpdate ファイル共有サーバーと LiveUpdate ポリシーについて」を参照してください。

## LiveUpdate ポリシーへのクライアントのインポート

次の方式の 1 つを使って LiveUpdate ポリシーにクライアントをインポートできます。

- 1 つ以上の NetBackup バックアップポリシーからクライアントをインポートする
- テキストファイルからクライアントをインポートする

次の手順では、1 つ以上の NetBackup バックアップポリシーからクライアントをインポートする方法について説明します。

#### NetBackup バックアップポリシーからクライアントをインポートするには

- 1 [クライアントを表示するポリシーの選択 (Select policy to show clients)] ペインで、インポートしたいクライアントを含んでいるポリシー名の隣のボックスをクリックしてください。
- 2 [クライアント名 (Client Name)] ペインで、インポートしたいクライアント名を選択してください。
- 3 > または >> アイコンをクリックして、それらのクライアント名を[選択されているクライアント (Selected Clients)] ペインに移動します。
- 4 [OK] をクリックします。

次の手順では、テキストファイルからクライアントをインポートする方法について説明します。

#### テキストファイルからクライアントをインポートする方法

- 1 新しいテキストファイルを作成します。
- 2 必要なクライアント情報を入力します。

各クライアントエントリは個別の行に表示されます。

各行はクライアントハードウェア、クライアントオペレーティングシステム (OS) およびクライアント名を含む必要があります。各エントリ間に最小の単一スペース (またはタブ) が必要になります。

---

**メモ:** またクライアントをインポートするのに使うことができるファイルに `bpplclients` の出力をリダイレクトできます。コマンド `/usr/openv/netbackup/bin/admincmd/bpplclients > clients.txt` は、正しい形式のクライアントリストを提供します。

---

- 3 すべてのクライアントが追加された後、ファイルを保存して閉じます。
- 4 テキストファイルからクライアントをインポートすることを選択すると、テキストファイルを開くための場所を参照するメッセージが表示されます。

クライアントが[未完了 (Incomplete)] または[無効 (Invalid)] と表示される場合、それらのクライアントのエントリは正しくありません。それらのクライアントはテキストファイルのエントリが訂正されるまでインポートできません。

## サーバーの更新について

LiveUpdate ポリシーを作成し、NetBackup LiveUpdate サーバーにリリース更新をダウンロードすると、NetBackup 環境を更新できるようになります。

更新を始める前に次のガイドラインを確認します。

- Windows クライアントの場合、更新予定の LiveUpdate ポリシーにリストされているサーバーで NetBackup Client Service が実行されている必要があります。
- NetBackup サーバーとクライアントは特定の順序で更新する必要があります。マスターサーバーは、常にメディアサーバーまたはクライアントと同じまたはそれより新しいバージョンである必要があります。サーバーより新しいバージョンの NetBackup を使うクライアントは、問題を引き起こし、バックアップやリストアを妨げる可能性があります。

---

**メモ:** NetBackup LiveUpdate は、NetBackup のメジャーリリースバージョンまたはマイナーリリースバージョンにサーバーを更新できません。NetBackup LiveUpdate を使ってメジャーリリースまたはマイナーリリースにサーバーを更新を試みれば、アップグレードは失敗します。Windows システムはエラーメッセージを表示します。UNIX システムでは、更新が適用されなかった場合でも、試行は成功したように見えます。

---

次は、更新を実行する順序を記述します。



## マスターサーバー

常にマスターサーバーを最初に更新します。

**LiveUpdate** ポリシーを実行するマスターサーバーは、それらのポリシーを使って更新できません。これらのサーバーは、次の方式の 1 つを使って更新する必要があります。

- 更新する各サーバーで `nbliveup` コマンドをローカルに使います。

ローカル更新を実行する前に、そのサーバーの **NetBackup Client Service** を停止してください。

p.26 の「ローカルにアップグレードする前の **NetBackup** プロセスとサービスの停止」を参照してください。

- 異なる **NetBackup** マスターサーバーから **LiveUpdate** ポリシーを実行します。

たとえば、マスターサーバー **B** のポリシーからマスターサーバー **A** を更新するには、次の手順を実行してください。

- マスターサーバー **B** で **LiveUpdate** ポリシーを作成します。
- マスターサーバー **B** のポリシーにクライアントとしてマスターサーバー **A** を追加します。
- マスターサーバー **A** の `registry entry` ファイル (Windows) または `bp.conf` ファイル (UNIX) にマスターサーバー **B** を追加します。
- マスターサーバー **B** でポリシーを実行します。

p.27 の「**NetBackup LiveUpdate** を使ったサーバーの更新」を参照してください。

## メディアサーバー

すべてのマスターサーバーが更新された後、メディアサーバーを更新できます。

ただし、**LiveUpdate** ポリシーを実行するマスターサーバーに関連するメディアサーバーは、それらのポリシーを使って更新できません。これらのサーバーは、ローカルに更新するか、または更新するメディアサーバーに関係しないマスターサーバーの **LiveUpdate** ポリシーを使って更新する必要があります。

メディアサーバーを更新するには、マスターサーバー更新に使われるのと同じ方式を使います。

p.27 の「**NetBackup LiveUpdate** を使ったサーバーの更新」を参照してください。

## クライアント

マスターサーバーとメディアサーバーが更新された後でクライアントを更新できます。

p.30 の「**NetBackup LiveUpdate** を使ったクライアントの更新」を参照してください。

nbliveup コマンドが AMD64 システムで使われるときに既知の問題が存在します。次の方法のいずれかを使用して、これらのシステムで nbliveup コマンドを実行します。

- |               |   |
|---------------|---|
| 方式 A - ローカル更新 | 次のコマンドを使用して、ローカルまたはリモートデスクトップセッションからコンピュータにコンソールユーザーとしてログオンする必要があります。<br><br><code>mstsc -v:your.machine.name.com /F -console</code><br><br>詳しくは、次のリンクを参照してください。<br><br><a href="http://support.microsoft.com/kb/278845">http://support.microsoft.com/kb/278845</a> |
| 方式 B - リモート更新 | 別の NetBackup マスターサーバーから LiveUpdate セッションを開始します。   |

## ローカルにアップグレードする前の NetBackup プロセスとサービスの停止

サーバーかクライアントをローカルに更新する必要がある場合、NetBackup サービスはアクティブにできません。

ローカル更新を実行する前に、次の手順を使ってすべての NetBackup Client Service を停止します。

ローカルに更新をインストールする前に **NetBackup Client Service** を停止する方法

- 1 NetBackup ジョブが、NetBackup のサーバーおよびクライアント上で実行されていないこと、または実行するためにキューに投入されていないことを確認します。
- 2 すべての NetBackup マスターサーバーですべてのバックアップポリシーを無効にします。
- 3 次のコマンドを使用してすべてのストレージライフサイクルポリシーを無効にします。

UNIX システムの場合: `/usr/opensv/netbackup/bin/admincmd/nbstlutil inactive -lifecycle policy_name`

Windows システムの場合: `install_path¥NetBackup¥bin¥admincmd¥nbstlutil inactive -lifecycle policy name`

- 4 すべてのディスクスレージングストレージユニットを無効にします。
- 5 すべてのメディアサーバーを無効にします。



UNIX システムの場合: `/usr/opensv/netbackup/bin/nbliveup -v  
 -d liveupdateServerProtocolOverride  
 <LiveUpdate_Server_Location>`

**メモ:** このコマンドの複数のインスタンスを一度に実行しないでください。コマンドを再び実行する前に、終了状態メッセージが表示されるまで待って、前回のインスタンスが完了したことを確認します。

nbliveup コマンドを使うときは、更新が存在する **LiveUpdate** サーバーの場所の完全なパスを入力します。

次の例は、サーバーの場所を入力するために使う必要がある形式を示しています。

```
http://yourWebServer.com/LUServer/  

file:/net/yourFileServer/LUServer/  

file:¥¥yourFileServer¥LUServer¥
```

#### ■ LiveUpdate ポリシー

LiveUpdate ポリシーを実行する方法

- 異なるサーバーから、NetBackup 管理コンソールを起動します。
- [ファイル (File)]>[LiveUpdate]をクリックします。
- [LiveUpdate ポリシー (LiveUpdate Policy)]ウィンドウでは、更新するマスターサーバーを含んでいる LiveUpdate ポリシーを選択します。
- [LiveUpdate の実行 (Run LiveUpdate)]をクリックします。
- アクティビティモニターで、すべての LiveUpdate ジョブが完了したことを確認します。

#### ■ クラスタ化されたサーバー

nbliveup コマンドは次の方法で実行します。

Windows システムの場合: ベストプラクティスとしては、非アクティブなノードを最初に更新し、次にアクティブノードを更新します。

- クラスタの非アクティブなノードごとに、次のコマンドを実行します。

```
NetBackup¥bin¥nbliveup.exe
liveupdateServerProtocolOverride
<LiveUpdate_Server_Location>
```

- アクティブノードで、次のコマンドを実行します。

```
NetBackup¥bin¥nbliveup.exe
liveupdateServerProtocolOverride
<LiveUpdate_Server_Location>
```

UNIX システムの場合:

- アクティブノードで、次のコマンドを実行します。  
/usr/opensv/netbackup/bin/bpclusterutil  
-freeze

- クラスタのノードごとに、次のコマンドを実行します。  
/usr/opensv/netbackup/bin/nbliveup  
-v -d

```
liveupdateServerProtocolOverride
<LiveUpdate_Server_Location>
```

**メモ:** このコマンドの複数のインスタンスを一度に実行しないでください。コマンドを再び実行する前に、終了状態メッセージが表示されるまで待つて、前回のインスタンスが完了したことを確認します。

- アクティブノードで、次のコマンドを実行します。  
/usr/opensv/netbackup/bin/bpclusterutil  
-unfreeze

- 3 メディアサーバーがある場合は、この手順のステップを繰り返してそれらのサーバーを更新します。

---

**メモ:** NetBackup 8.1 にアップグレードするために Windows システムで LiveUpdate ポリシーを実行した後、アクティビティモニターは終了状態 77 のエラーを報告することがあります。このエラーコードは LiveUpdate ポリシーが実行したインストールが正常に完了しなかったことを示すことがあります。このエラーコードが表示されたら、インストールエラーが起きたリモートシステムのインストールログファイルを確認します。ログファイルは % ALLUSERSPROFILE% ¥Veritas¥NetBackup¥InstallLogs にあります。ログで Return Value 3 を含む文字列、または黄色か赤色のテキストで表示されているログメッセージを検索します。また、エラーを報告したサーバーの [ホストプロパティ (Host Properties)] を調べることによって、アップグレードが正常だったことを NetBackup 管理コンソールから確認できます。

---

# NetBackup LiveUpdate を使ったクライアントの更新

使用予定の LiveUpdate ポリシーにリストされている UNIX および Windows クライアントで NetBackup Client Service が実行されている必要があります。

次の手順を使用してクライアントを更新します。

## クライアントを更新する方法

- 1 更新予定のすべての Windows クライアントで NetBackup Client Service が実行されていることを確認してください。Windows クライアントは、NetBackup Client Service が停止している場合、LiveUpdate ポリシーを使って更新できません。
- 2 マスターサーバーから、NetBackup 管理コンソールを実行します。
- 3 [ファイル (File)]>[LiveUpdate]をクリックします。
- 4 [LiveUpdate ポリシー (LiveUpdate Policy)]ウィンドウでは、更新するクライアントを含んでいる LiveUpdate ポリシーを選択します。
- 5 [LiveUpdate の実行 (Run LiveUpdate)]をクリックします。
- 6 アクティビティモニターで、すべての LiveUpdate ジョブが完了したことを確認します。

## LiveUpdate ログについて

このセクションでは、Windows 版と UNIX 版の NetBackup システムで LiveUpdate ログを有効にし、使う方法を説明します。

次に NetBackup LiveUpdate のログディレクトリを示します。

nbliveup	nbliveup は、LiveUpdate ポリシーを実行する NetBackup マスターサーバーによってアクセスされる NetBackup クライアントプログラムです。プログラムは、更新する各 NetBackup サーバーまたはクライアントの LiveUpdate エージェントの構成と初期化を行います。
liveupdate	このログは LiveUpdate エージェントについての情報を含んでいます。便宜上、ログはシステムの場所から NetBackup のログディレクトリにコピーされます。
patch	このログは NetBackup リリース更新のインストーラについての情報を含んでいます。便宜上、ログは NetBackup のログディレクトリにコピーされます。

すべての NetBackup サーバーとクライアントで、NetBackup LiveUpdate をインストールすると nbliveup ログディレクトリが作成されます。

liveupdate と patch のログ機能を有効にするには、最初に適切なコマンドを実行するか、または適切なディレクトリを作成してください。これらの機能は **LiveUpdate** ポリシーを実行する前に有効にする必要があります。

次は、これらの機能を有効にするために使うことができる別の方法を記述します。

サーバーとクライアントで次のコマンドを実行します。

- **Windows** サーバーとクライアントの場合:  
NetBackup¥logs¥mklogdir
- **UNIX** サーバーの場合のみ:  
/usr/opensv/netbackup/logs/mklogdir

サーバーとクライアント上に次のディレクトリを作成します。

- **Windows** サーバーとクライアントの場合:  
NetBackup¥logs¥liveupdate  
NetBackup¥logs¥patch
- **UNIX** サーバーとクライアントの場合:  
/usr/opensv/netbackup/logs/liveupdate  
/usr/opensv/netbackup/logs/patch

これらのディレクトリを作成しなければ、次に示す元の場所からのみ追加の **LiveUpdate** ログを表示できます。

liveupdate ログ

- **Windows** サーバーとクライアントの場合:  
<LIVEUPDATE\_INSTALL\_DIR>¥Veritas¥  
LiveUpdate¥Log.LiveUpdate  
LIVEUPDATE\_INSTALL\_DIR は、通常、Program Files  
ディレクトリにあります。
- **UNIX** サーバーとクライアントの場合:  
/<SYMC\_BASE\_DIR>/LiveUpdate/liveupdt.log  
SYMC\_BASE\_DIR は /etc/Veritas.conf で定義され  
ます。

patch ログ

- **Windows** サーバーとクライアントの場合:  
NetBackup¥Patch¥History.Log
- **UNIX** サーバーとクライアントの場合:  
/usr/opensv/pack/pack.history

## リモートでのログの取得

bpgetdebuglog コマンドを使用して、マスターサーバーから **LiveUpdate** ログをリモートで取り出すことができます。

コマンドの remote\_program の引数は、LiveUpdate、nbliveup、または patch ディレクトリを参照します。

bpgetdebuglog コマンドの引数について詳しくは、『NetBackup コマンドリファレンスガイド』を参照してください。

<http://www.veritas.com/docs/DOC5332>

ログをリモートで取り出す方法

- Windows システムの場合、次のコマンドを入力します。

```
install_path¥NetBackup¥bin¥admincmd¥bpgetdebuglog remote_machine  
remote_program mmddy
```
- UNIX システムの場合、次のコマンドを入力します。

```
/usr/opensv/netbackup/bin/admincmd/bpgetdebuglog remote_machine  
remote_program mmddy
```

## NetBackup ホストでの LiveUpdate の無効化

LiveUpdate は、NetBackup クライアントとサーバーの各インストールで自動的にインストールされます。また、NetBackup はインストールの時に LiveUpdate エージェントに自動的に登録されます。

NetBackup の更新が特定のホストに適用されないように LiveUpdate を無効にする場合は、次の方式の 1 つを使います。

- LiveUpdate ポリシーからホストを削除します。  
p.20 の「LiveUpdate ポリシーの作成」を参照してください。
- LiveUpdate ポリシーを削除します。
- LiveUpdate が NetBackup の更新を試みないように、特定のホストを登録解除します。ホストを登録解除するには、ホストで適切なコマンドを入力します。

UNIX システムの場合: 

```
/usr/opensv/netbackup/bin/nblu_registration  
-r
```

このコマンドは、次の LiveUpdate インベントリファイルからすべての NetBackup エントリを削除します。

```
/etc/Product.Catalog.JavaLiveUpdate
```

Windows システムの場合: 

```
LU_Registration.exe -InstallType  
Unregister -Product NBU
```

Windows 版 Java コンソールをインストールした場合は、次のコマンドを実行します。

```
LU_Registration.exe -InstallType  
Unregister -Product NBU-Java
```



LiveUpdate を無効にした後、ホストで有効にするには、ホストで適切なコマンドを入力します。

UNIX システムの場合: `/usr/opensv/netbackup/bin/nblu_registration`

Windows システムの場合: `LU_Registration.exe -InstallType Register  
-Product NBU`

Windows 版 Java コンソールをインストールした場合は、次のコマンドを実行します。

`LU_Registration.exe -InstallType Register  
-Product NBU-Java`

# 参照先

この付録では以下の項目について説明しています。

- [ホストのローカル構成](#)
- [Windows および UNIX クライアントでの LiveUpdate ファイル共有サーバーと LiveUpdate ポリシーについて](#)

## ホストのローカル構成

LiveUpdate ポリシーを作成するとき、ベリタス社は機能[このポリシーのすべてのクライアントに同じ LiveUpdate サーバーの場所を強制的に使用させる (Force all clients in this policy to use the same LiveUpdate Server Location)]を有効にすることを推奨します。

ただし、単一の LiveUpdate ポリシーのクライアントで異なる LiveUpdate サーバーを使う場合は、ポリシーでこのオプションを無効にしてください。また、LiveUpdate ポリシーにリストされている各クライアントがローカルに構成され、有効な LiveUpdate サーバーから更新を受信することも確認してください。

---

**メモ:** LiveUpdate を使って更新されたすべての サーバーとクライアントはすでにローカルに構成されています。既存の構成が引き続き有効なら、追加手順は必要ありません。

---

LiveUpdate サーバーの設定は LiveUpdate エージェントを実行する各ホストのローカルファイルに保存されます。

Windows

```
<INSTALL_DRIVE>%Program  
Files%NetBackup%LiveUpdateHost.hst
```

このファイルはテキストエディタで読むことも編集することもできません。

UNIX `/usr/opensv/netbackup/nblu.conf`

このファイルの `hosts/0/` 行がサーバーの場所を特定します。  
次に例を示します。

`/hosts/0/url=http://yourwebserver/LUServer/7.0.1`

Windows ホストか UNIX ホストをローカルに構成するには次の手順を使います。

### Windows ホストをローカルに構成する方法

- ◆ コマンドラインインターフェースを使って次の行を編集します。

```
<IDrive>%Program Files%NetBackup%Bin%LU_Registration.exe  
-OperationType CreateHostFile -Server <LU_Server_Location>
```

構文が次の例の 1 つと一致することを確認してください。

- `<IDrive>%Program Files%NetBackup%Bin%LU_Registration.exe  
-OperationType CreateHostFile -Server  
http://<webserver>/<LiveUpdatePackageDirectory>/`

- `<IDrive>%Program Files%NetBackup%Bin%LU_Registration.exe  
-OperationType CreateHostFile -Server  
%<fileshare>%<LiveUpdatePackageDirectory>%`

- この例は **LiveUpdate** パッケージを含んでいるネットワーク共有に `L:%` ドライブをマッピングした場合は説明したものです。

```
<IDrive>%Program Files%NetBackup%Bin%LU_Registration.exe  
-OperationType CreateHostFile -Server  
L:%<LiveUpdatePackageDirectory>%
```

ファイル共有の場合は、Windows の [ファイル名を指定して実行] ダイアログボックスから「copy」コマンドを実行するのと同じ形式でディレクトリパスを入力します。

## UNIX ホストをローカルに構成する方法

- 1 テキストエディタを使って、次の例に示すように `/usr/opensv/netbackup/nblu.conf` を修正します。

```
http:          hosts/0/url=http://<webserver>/<LiveUpdatePackageDirectory>/
https:         hosts/0/url=https://<webserver>/<LiveUpdatePackageDirectory>/
ファイル共有: hosts/0/access=/net/<fileshare>/<LiveUpdatePackageDirectory>/
```

- 2 `nblu.conf` ファイルは、`nbliveup` の初回実行時に作成されます。`nblu.conf` がシステムにまだない場合は、次のコマンドを使用して作成してください。

```
cp /usr/opensv/netbackup/nblu.conf.template
   /usr/opensv/netbackup/nblu.conf
```

# Windows および UNIX クライアントでの LiveUpdate ファイル共有サーバーと LiveUpdate ポリシーについて

[LiveUpdate サーバーの場所 (LiveUpdate Server Location)]がファイル共有として構成されている場合は、LiveUpdate ポリシーに Windows と UNIX クライアントの両方を含めることができます。NetBackup は次に、ターゲットプラットフォーム上の適切なパス名の構文に、指定された場所をマッピングしようとします。

この処理の例を次に示します。

### 例1: Windows のパス名

LiveUpdate ポリシーでは、[LiveUpdate サーバーの場所 (LiveUpdate Server Location)]に Windows のパス名を指定します。次に例を示します。

```
file:¥¥fileserver¥LUServer¥
```

LiveUpdate パッケージが NetBackup のサポート Web サイトから正しくダウンロードされたら、この例はこのまま、ポリシーの Windows クライアントに対して動作します。

ポリシーの UNIX クライアントの場合は、`nbliveup` は次の通りパスを変換します。

```
/net/fileserver/LUServer
```

`/net/` が `file:` に置き換えられ、すべてのバックスラッシュがスラッシュに変換されることに注意してください。

**例2: UNIX のパス名**

LiveUpdate ポリシーでは、[LiveUpdate サーバーの場所 (LiveUpdate Server Location)]に UNIX のパス名を指定します。次に例を示します。

```
/net/fileserver/LUserver/7.0.4
```

LiveUpdate パッケージが NetBackup のサポート Web サイトから正しくダウンロードされたら、この例はこのまま、ポリシーの UNIX クライアントに対して動作します。

ポリシーの Windows クライアントの場合は、nbliveup は次の通りパスを変換します。

```
/net/fileserverLUserver7.0.4
```

/net/ が削除され、すべてのスラッシュが円記号に変換されることに注意してください。追加の円記号もパスの始めに追加されます。

この変換が動作しない場合は、シマンテック社は Windows クライアントと UNIX クライアントに個別の LiveUpdate ポリシーを作成することを推奨します。